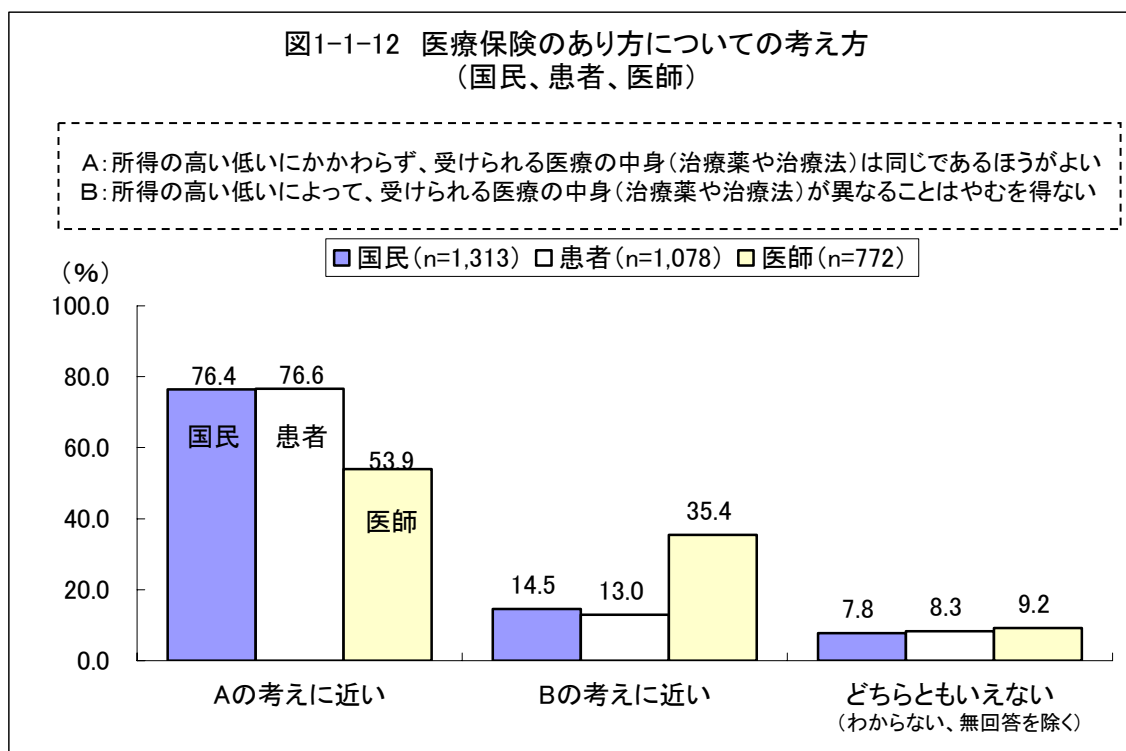


5) 医療保険のあり方について

所得によって受けられる医療の中身が異なることについて、国民や患者の意識に変化が生じているであろうか。「所得の高い低いにかかわらず、受けられる医療の中身（治療薬や治療法）が同じであるほうがよい」という回答は、国民の76.4%、患者の76.6%であった。この結果には、第1回、第2回調査から大きな変化はみられず⁷、大半の国民・患者が現在の制度を支持していることが示された（図1-1-12）。

一方、医師は、「受けられる医療が同じ」であることを望む割合が53.9%であった。医師では「所得の高い低いによって、受けられる医療の中身が異なることはやむを得ない」も35.4%、特に病院医師の間では43.6%あり、医療現場での苦悩もうかがえた。



⁷ 「現在のように所得の高い低いに関係なく、国民みんなが同じレベルの医療を受けられる仕組みがよい」に賛成もしくは、どちらかといえば賛成と回答した人の割合は、第1回調査では国民71.4%、患者74.0%、第2回調査では国民72.1%、患者76.8%。<http://www.jmari.med.or.jp/research/dl.php?no=336>